

国語科学習指導案

東広島市立平岩小学校 宗信 朋実

1 日 時 令和4年12月16日（金）第3校時

2 学 年 第1学年1組 男子11名 女子15名 計26名

3 単元名 のりものガイドになってしょうかいしよう 「いろいろな ふね」
(東京書籍 「あたらしいこくご 一下」)

4 単元について

(1) 単元観

単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）国語第1学年及び第2学年の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」(1)ウを受けて設定している。文章の中で説明している観点を捉えて、大事な語や文を見付けることができるようになることをねらいとしている。また、書かれている事柄の順序を捉え、まとまりごとの共通点に気付くことで、どこに何が書かれているかを見付ける力を伸ばすこともできる単元である。

本教材は、特徴的な機能を持った四種類の船を例として取り上げ、役目や構造、装備などについて説明した文章である。四種類の船の例示が、同じ文章構成（役目、つくり、できること）、同じ文型で説明されており、叙述に即して内容を正確に捉えることに適している。また、話題提示の段落、四種類の船の例示、話題提示に対するまとめの段落、というように分かりやすい文章構成になっており、説明的な文章の基本的な構成を理解させることができる教材である。教材文が船を取り上げてあるため、児童が実際に乗り物について調べる際に、身近な自動車などを取り上げて学習活動を進めることができる。

(2) 児童観

本学級の児童は、説明的な文章「どうやってみをまもるのかな」を読む単元において、文章のまとまりごとに内容を捉え、本文中の問いに沿って答えとなる文を抜き出したり、動物ごとに大事な言葉や文を見付けたりする学習をした。しかし、叙述に着目せずに想像で自分の考えを述べる児童もおり、叙述を基に考えさせるための手立てが必要である。また、本学級の児童は、読書に意欲的に取り組んでおり、進んで図鑑を読んでいる児童も多く見られる。しかし、語彙が豊富な児童と、そうでない児童の差がとても大きい。本単元での「乗り物」についても個々で知識の差が大きいと思われる。

単元前の児童アンケートの結果から、およそ9割の児童は国語科の授業に進んで学習していることが分かった。また、友達のことを聞き、自分の考えを広げている児童も多いことも分かった。しかし、学習課題をしっかりと理解できていなかったり、自分の考えに自信がもてていなかったりするため、学習課題に対して自分の考えをもつことや、理由を付けて発表することが苦手だと感じている児童もいる。

(3) 指導観

指導にあたっては、児童が意欲的に学習に取り組みながら、情報と情報の関係を捉えて文章を読み、大事な語や文を見付け出すことができるよう、好きな乗り物をカードにまとめて紹介する活動を設定する。

まず、乗り物に関する本の「考え聞かせ」を行い、様々な乗り物があることや、乗り物によって特徴があることに気付かせる。また、「乗り物ランド」を作り、並行読書で乗り物に関する本や図鑑を読めるコーナーを設けたり、図画工作科で作成した乗り物の作品を掲示したりすることで、児童の意欲を引き出していきたい。「考え聞かせ」や本や図鑑を読むことを通して、児童の語彙を増やし、難しい言葉を説明したり映像を見せたりして言葉の意味を正しく理解させながら学習を進めていく。

次に、「文章の中の重要な語や文を選び出す」力を付けることができるようにするために、教材文を「しごと」「つくり」「できること」に分けてカードを書かせる。「しごと」「つくり」「できること」は色分けして提示したり、ワークシートにまとめさせたりすることで、視覚的に役割の

違いを理解することができるようにする。その際、あえて「しごと」「つくり」「できること」の順序を変えて提示することで、「しごと」「つくり」「できること」の順序で説明するとより分かりやすいことに気付かせたい。また、「しごと」「つくり」「できること」の関係を「そのために」や「だから」といった接続語を使って読ませ、それぞれのつながりを意識させていきたい。

教材文を読んだ後、児童が事前に見学した「観光バス」を題材として教師が自作した資料を用いて、カードを作成する時間を設ける。そして、今後自分で乗り物を調べて学習を進めていく際に、「しごと」「つくり」「できること」がつながっていることが大切であることに気付かせていく。つながりをもたせるためには、似た言葉や関係のある言葉を見付ける必要があることも理解させたい。

自分の好きな乗り物カードを作る際には、三色の付箋を準備し、観点ごとに整理しながら図鑑や本を読ませる。その際、「しごと」「つくり」「できること」がつながっているかどうか友達と確かめ合ったり、よりその乗り物に合う「つくり」や「できること」を考えたりするなど、相手に伝わる内容になっているかを検討させたい。最後に、まとめたカードを友達同士で交流し合い、分かったことや感じたことを共有したり、自分の体験と結び付けて感想をもたせたりするとともに、自信をもって発表することができるようにする。発表の様子は動画で撮影しておき、家庭や他の学年に見てもらって感想をもらうことで、児童が学習の成果を実感できるようにする。また、そのカードは乗り物ランドに掲示し、様々な学年に見てもらうことで、児童の肯定感や満足感を高めたい。

5 単元の目標

- 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。
[知識及び技能] (2) ア
- 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。
[思考力、判断力、表現力等] C (1) ウ
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
[学びに向かう力、人間性等]

6 単元の評価規準

乗り物について本や図鑑で調べたことを、観点ごとにカードにまとめる活動を通した指導 【言語活動例 C (2) ウ】		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 (2) ア 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 C (1) ウ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進んで、文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、学習課題に沿って、乗り物について調べたことをカードにまとめようとしている。

7 評価の具体及び手立て

	評価規準【「おおむね満足できる」状況（B）】	「努力を要する」状況（C）と判断した児童への指導の手立て						
思考・判断・表現	<p>「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。</p> <p>付箋</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <h3>スーパーアンビュランス</h3> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">できること</td> <td style="padding: 5px;">つくり</td> <td style="padding: 5px;">しごと</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">一どに大ぜいの人をちりょうできる</td> <td style="padding: 5px;">しやたいをひろげるとひろいへやになる</td> <td style="padding: 5px;">びようきの人やけがをした人をいそいで びよういんへはこぶ</td> </tr> </table> </div>	できること	つくり	しごと	一どに大ぜいの人をちりょうできる	しやたいをひろげるとひろいへやになる	びようきの人やけがをした人をいそいで びよういんへはこぶ	<ul style="list-style-type: none"> どの言葉に着目したらよいかなど、既習内容を掲示し、それらを基に考えさせる。 教師が図鑑の内容を「しごと」「つくり」「できること」が読み取りやすいようにリライトした教材を準備しておくことで、児童が「しごと」「つくり」「できること」の因果関係を整理できるようにする。 グループ活動を設けることで、自分の考えに自信がもてずに取り組めない児童も、友だちと相談しながら活動することができるようにする。
できること	つくり	しごと						
一どに大ぜいの人をちりょうできる	しやたいをひろげるとひろいへやになる	びようきの人やけがをした人をいそいで びよういんへはこぶ						

8 指導と評価の計画（全13時間）

次	時	学習内容	評価			
			知	思	主	評価規準・評価方法等
一	1 2	<p>・乗り物を紹介した本や図鑑の「考え聞かせ」を聞き、「のりものカード」を作る意欲をもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「のりものカード」をつくって、好きな乗り物を紹介しよう。</p> </div> <p>・知っている乗り物について話し合い、「のりものカード」をつくるための計画を立てる。 →その乗り物のできること、どんなものがついているか、何をやる乗り物なのかを紹介したらいい。絵や写真があるといい。</p>				
二	3	<p>・教材文を読み、全文を三つに分ける。 →①はじめ ②③④きやくせん ⑤⑥⑦フェリーボート ⑧⑨⑩ぎよせん ⑪⑫⑬しょうぼうてい ⑭おわり 「中」は全部三つの文で書いてある。ふねが順番に出てくる。</p>				
	4	<p>・「きやくせん」を読んで、カードにまとめる。 →しごと…たかさんの人を運ぶ つくり…客室や食堂がある できること…客室で休んだり、食堂で食事をしたりする</p>				
	5	<p>・「フェリーボート」を読んで、カードにまとめる。 →しごと…たかさんの人と自動車をいっしょに運ぶ つくり…客室や車をとめておくところがある できること…車を船に入れてから客室でや休む</p>				

	6	○客船と違うところは、人だけでなく自動車も運ぶ ・「ぎょせん」を読んで、カードにまとめる。 →しごと…魚をとる つくり…魚の群れを見付ける機械や網をつんでいる ※つんでいる、の書き方もつくり できること…見つけた魚を網でとる →つくり…クレーン できること…大きな網をつけてさかなをすくい、水そ うにうつす 魚を港に下ろす				
	7	・「しょうぼうてい」を読んで、カードにまとめる。 →しごと…船の火事をけす つくり…ポンプやホースをつんでいる できること…火事があると水や薬をかけて火を消す →しごと、つくり、できることの順番が大切。分かりや すい。 (つくり…ほう水じゅう、カメラ) (できること…水を色々な角度にとばす、暗い時に火事 がおきても火を消せる)				
	8	・「観光バス」についてカードにまとめる活動を通 して、「しごと」「つくり」「できること」 のつながりについて考える。 →しごと…旅行のときに人を運ぶ つくり、できること 大きいまど、高い座席→景色がよく見える テレビ→長く乗っていても、楽しめる マイク…うしろにいる人にも声がよく聞こえる テーブルが出せる…ごはんを食べたり飲み物を置いた りできる 足おき…つかれた足を休ませる →しごと、つくり、できることは、つながっていないと いけない	○			[知識・技能] <u>ワークシート</u> ・事柄の順序など情報と情 報との関係について理解 している。
三	9	・自分の好きな乗り物の本を見付ける。 →見つけたら付箋を貼る。 図鑑は、目次を見て、見たいページを開いて探す。本 によっては、仲間ごとにまとめて書かれている。		○	○	[思考・判断・表現] <u>付箋 カード</u> ・「読むこと」において、 文章の中の重要な語や文 を考えて選び出してい る。 [主体的に学習に取り組む 態度] <u>児童の様子</u> ・進んで、文章の中の重要 な語や文を考えて選び出 し、学習課題に沿って、 乗り物について調べたこ とをカードにまとめている。
	10 (本 時)	・本や図鑑から「しごと」「つくり」「できるこ と」を見付ける。 →しごとは赤の付箋、つくりは青の付箋、できることは 緑の付箋にまとめる。				
	11	・読み取った内容を基にカードを作成する。 →しごと、つくり、できることがつながっているか確か めよう。				
	12	・乗り物ガイドになって、乗り物カードを紹介し 合い、感じたことを伝え合う。 →友だちの紹介した乗り物のすごいところは○○だ。 自分の調べた乗り物と○○なところがにているな。				
四	13	・学習の振り返りをする。				
<p>乗り物について紹介するときは、しごと、つくり（そののりものにあるもの、ついでいるもの）、できるこ とを見つけたらよい。しごと、つくり、できることがつながっていると相手によりその乗り物について伝わ る。つながっているものを見付ける時は、関係のある言葉や似ている言葉を探すとよい。</p>						

10 指導上の工夫

(1) 環境づくりの工夫

児童の興味関心を高めたり、語彙を増やしたりするために、廊下に「乗り物ランド」を作り、様々な種類の乗り物に関する本や図鑑を並べておき、いつでも児童が手に取ることができるようにした。さらに、他教科の学習とも関連させ、算数科「かたちあそび」や図画工作科「はことはこをくみあわせて」での児童の乗り物の作品を合わせて掲示した。



(2) 考え聞かせの取組

単元の導入で教師が様々な乗り物の本を児童に紹介し、写真を見せながら「どんなしごとをする乗り物だと思う?」「どんなものがついている?」「この乗り物はどんなことができると思う?」など、単元を通して児童が読み取っていく視点を取り入れながら「考え聞かせ」を行った。また、図鑑の全ての文章に着目させるため、図鑑の端に書いてある言葉や写真にも注目させながら、児童とやり取りを進めた。この取組を通して、図鑑を読み取る方法や、どのようなことに着目して図鑑を読んだらよいかなど、学習に必要な視点を、児童に意識付けることができた。

11 手立ての具体

(1) わからない言葉を確認する時間の確保

図鑑には、児童の知らない言葉が多く出てくるため、意味を理解していないと、重要な語や文を抜き出すことは難しい。意味を知っている児童に説明させたり、写真を紹介したりして学習を進めた。この活動を続けていくことで、実際の図鑑作りでも、言葉の意味を確認しながら読み取っていく姿が見られた。

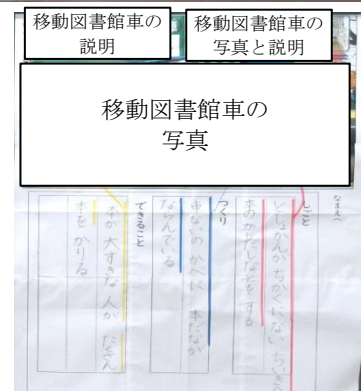
(2) 「しごと一つくりーできること」のつながりに気付かせることをねらいとした時間の設定

「知識・技能」を身に付ける時間を設定し、教科書にはない「観光バス」を取り上げ、「つくり」に合う「できること」を選ばせたり、「つくり」と「できること」は関連しているけれど、「しごと」と「できること」には関連していない例を出したりして、「しごと・つくり・できること」がつながっている必要があることに気付かせた。知識・技能が身に付くと、それを用いて子どもたちが自分で「これが『重要な語(文)』だ」「つながりのある言葉を見つけたらいい」と判断できるようになった。



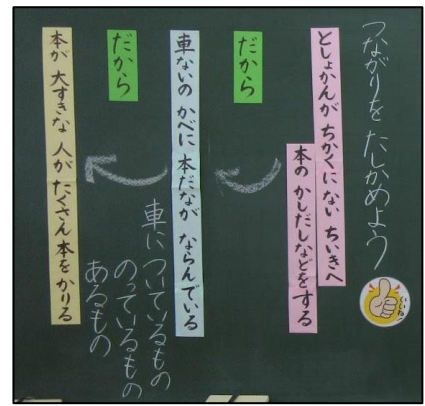
(3) 教師の作成した乗り物カードと図鑑の提示

実際に児童が図鑑を用いて乗り物カードを作成する前に、教師の作成したカードとその際に使用した図鑑の言葉を線で結ばせることで、図鑑のどの部分に着目したらよいか、カードを書く際の見通しをもたせることができ、具体的にまとめ方を学ばせることができた。



(4) 接続詞「だから」を入れて確認

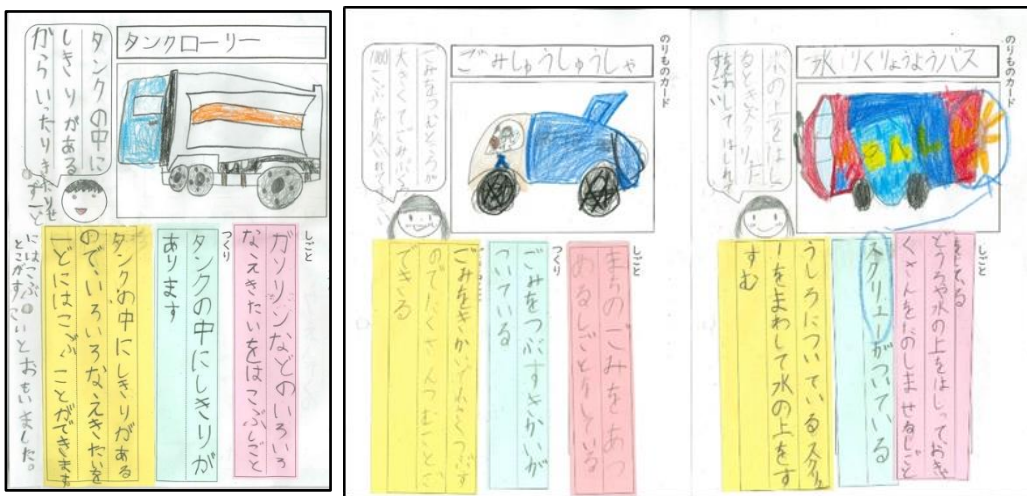
抜き出した文を接続詞「だから」を入れて音読させることで、三つの観点がきちんとつながっているかを確認させた。音読することで、児童は「これはちょっとつながっていないな。」「もう一回考えてみよう。」「と図鑑を再度確認する姿も多く見られた。



(5) 児童同士でつながりを確認する時間の設定

「いいねカード」を用いて児童同士でつながりを確認し合うことで、楽しみながら三つの観点のつながりに関する理解を深めることができた。また、つながっていないところは質問したり、一緒に図鑑を読んで確認したりするなど、進んで学習に取り組む様子が見られた。

12 評価の実際



「しごと」「つくり」「できること」を図鑑から選び出し、関連させて書くことができていたらB評価とする。

Bと評価した児童のワークシート

13 成果と課題

(1) 成果

- ・「いろいろなふね」の学習が楽しかったと答えた児童 100%
- ・単元の振り返りで「しごと一つくりーできること」のつながりの大切さに気付くことができた児童 100%
- ・単元のゴール「のりものずかん」に自分の好きな乗り物を「しごと一つくりーできること」がつながるようにまとめることができた児童 96%
→Cと評価した児童（1名）には、より難易度の低い内容になるように資料を加工して再度「のりものずかん」を作成させた。単元終了後も、大切な言葉に線を引かせるなど、言葉に着目して読むことができるように指導していく。

(2) 課題

- ・三つの観点が整理して記載されていない図鑑もあるため、選んだ図書資料によって重要な語や文を選び出すことに対する難易度に差がある。児童の実態に応じた資料加工が必要である。
- ・単元を通してグループ活動やペア活動を仕組む→友だちの作成した「のりものずかん」に触れることで、学びをさらに深めることができる。